

〈音楽科〉 4年

現在の分析

〈音楽への関心・意欲・態度〉

- 音楽を楽しみ、歌唱・器楽演奏などの表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組む姿が見られる。

〈音楽表現の創意工夫〉

- 創作した簡単なリズムを、拍の流れの中で演奏することができる。
- 楽曲に合った表現(強弱・はずむように・なめらかに等)をしようとしている。

〈音楽表現の技能〉

- 明るく響きのある声で歌うことや、声や音を重ねることに意欲的に取り組んでいる。
- リコーダーは、姿勢・構え・指使いまではほぼ定着しているが、サミング奏法についてはまだ不安定である。

〈鑑賞の能力〉

- 楽曲の強弱・速度・拍子などの特徴に気をつけて、楽しく聴いている。

重点課題

〈音楽への関心・意欲・態度〉

- より積極的に歌唱・演奏し、友だちの表現のよさに気づいて学習すること。

〈音楽表現の創意工夫〉

- より多くの音楽的な要素に気づき、楽曲の感じに合った歌い方や演奏を工夫し、曲想に合った表現をしていくこと。
- 音楽の仕組み(反復・変化)を生かして、音楽づくりができるようになること。

〈音楽表現の技能〉

- 声の響きに気を付けて伸びやかな声で歌い、音色を生かす奏法に気付いて楽器を演奏できるようになること。
- リコーダーは指使いや息の入れ方、サミング奏法を定着させ、演奏の技能を伸ばすこと。

〈鑑賞の能力〉

- 音楽を特徴付けている様々な要素の働きに気づいて、音楽のよさや楽しさを味わって聴くこと。

授業改善策

〈音楽への関心・意欲・態度〉

- 児童の実態に合わせて、学習形態や内容を工夫し、できる楽しさを味わわせ関心をもたせる。
- お互いの歌唱・演奏を聴きあう学習活動を多く取り入れ、認め合い・高め合う学習を通して意欲を持たせるようにする。

〈音楽表現の創意工夫〉

- 曲想や特徴を感じ取り、歌唱や身体表現で表していくようにする。
- 友だちと様々な音やリズムの組み合わせを工夫したり表現したりする音楽づくりの活動を行う。

〈音楽表現の技能〉

- 歌唱するときの姿勢・呼吸・発声を積み重ね、曲想に合った歌い方や声の出し方を身につけていく。
- 一人一人の音色を聴く機会を持ち、的確なアドバイスと繰り返し練習することにより、基礎的な演奏技能(音色・サミング・タンギング等)を伸ばしていく。

〈鑑賞の能力〉

- 曲想の変化、音楽を特徴付けている要素の働き、楽器の音色などについての理解を深めながら、音楽のよさや美しさを感じ取れるような指導を工夫する。